

令和5年度第2回瀬戸市総合教育会議 議事録

▽日 時

令和6年1月11日（木） 午後3時から午後4時まで

▽場 所

瀬戸市役所 北庁舎4階 庁議室

▽出席者（順不同、敬称略）

【瀬戸市総合教育会議構成員】

瀬戸市長 川本雅之

教育委員会教育長 加藤正彦

教育長職務代理者 小澤慎太郎（欠席）

教育委員会委員 竹川典子、加藤千春、稲垣遼、大脇忠、安井友香

【事務局等】

副市長 大森雅之

経営戦略部 部長 駒田一幸

政策推進課 課長 久野 崇、課長補佐 大矢達也

教育部 部長 磯村玲子

教育政策課 課長 谷口 壘、課長補佐 松見健一、専門員 松浦慎造

学校教育課 課長 大羽健志、主幹 此下明雄

▽議題

- (1) 第1回瀬戸市総合教育会議の振り返りについて
- (2) 瀬戸市教育大綱の改定案について

▽議事内容

議事に先立ち、川本雅之市長から開会のあいさつがなされた。

- (1) 第1回瀬戸市総合教育会議の振り返りについて
○政策推進課長から資料2・3に基づき、第1回総合教育会議における議事内容について説明を行った。
- (2) 瀬戸市教育大綱の改定案について
○政策推進課長から資料4・5に基づき、瀬戸市教育大綱の改正案について説明を行った。
委員と意見交換を行った。意見については、以下のとおり。

（委員）

- 「ふるさと」という定義について、すでに住んでいる人への視点であり、生まれ育ったまちとしての「ふるさと」なのか。瀬戸市の現状からすると、人

口の社会増が続いていて、転入される方が増えてくる。すでに住んでいる方だけでなく、今後、瀬戸で住みたい、暮らしたいといった方々に対しても「ふるさと」の意味が伝わる表現があるとよい。

(市長)

- 「一緒にふるさとづくりをしましょう」という意味合いも含めています。すでに瀬戸市で暮らしている方も、これから転入してくる方も全ての人たちと一緒に、この瀬戸市を「ふるさと」として創っていこうというメッセージが伝わるようにします。

(委員)

- 第2段落の1行目に「ものづくり文化や歴史などの地域資源」と「豊かな自然環境」が併記されていますが、3行目には「こうした本市特有の地域資源」という記載になっている。本市の自然環境というアピールポイントは、「地域資源」の中に含めずに明確に表記してはどうか。

(市長)

- 案文を修正します。

(委員)

- 幸せ（ウェルビーイング）という言葉は市民の方にとってもわかりやすいものではないでしょうか。

(事務局)

- ウェルビーイングにつきましては、国の教育振興基本計画にも示されており、個々それぞれの幸福感に関する一つの指標となるものと認識しています。まだ馴染みがない方も多いかもしれませんが、今度広く認識されていくものと考えています。

委員

- 第5段落にある「こうした本市ならではの教育風土」の「こうした」とは、何を指すのでしょうか。瀬戸市らしい教育はこういうものだという、わかりやすく説明できるものがあるとよい。

(事務局)。

- 大綱案の第2段落から第4段落に示したところでは、歴史ある地域資源や自然環境を大切に、学校と地域が連携して教育を支えるとともに、小中一貫教育を推進している点などが本市ならではの教育であると考えています。

委員

- 第4段落の「多様なニーズに対する学校教育の推進」や「教育環境の整備」

というのは、主任児童委員の立場からも、大切であると考えます。不登校などいろいろな問題がある中で、中学校4校に居場所ができて、気軽に学校に行くことができるようになったという話も聞いています。どのような状況にあっても、その子を大切に、安心して過ごせる場があるというのは瀬戸市の資源になると思います。

(市長)

- 各委員の意見を参考に、案を再度修正する。
- 改正案の方向性については、全会一致で了承。

(教育長)

- 国の次期教育振興基本計画に「2040年以降の将来を見据えた持続可能な社会のつくり手の育成」と「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」という、2つの大きなコンセプトが示されている。
- ウェルビーイングについては、教育が従来の画一性から多様性、集団から個に重点が移りつつあり、一人ひとりの良さや、多様性・個性を認め合いながら幸せを追求していくことだとされています。市長部局の方から提案のあった大綱案にもウェルビーイングという言葉があり、市としても目指していくことが示されております。改めて、1人1人の子供たちの幸福のあり方についても、私達は理解していくべきだと考えます。
- 瀬戸市らしい教育というのは、やはりものづくりを起点とした連綿と続く産業に基づくものと、小中一貫教育にあたるのだと思っています。協働型の課題解決能力の育成と個別最適な学びの一体化を追求していくことが瀬戸らしい教育のあり方ではないかと理解しています。
- これまで実施してきた小中一貫教育は施設一体型であり、同じ建物の中で切れ目なく子どもたちを9年間育てていきたいと思いますというのが、にじの丘学園の教育です。今後全市的な小中一貫教育を目指す中では、施設分離型の小中一貫教育を実現していきたい。その一つの大きな柱になってくるのが、令和8年度に統合します菱野団地における新しい学校です。
- 菱野団地の小中一貫校では学習指導要領の内容を網羅しつつ、新たな教科をつくり、ここでしか学べない教育をやっていきたいと考えており、誰1人取り残されない教育にも繋がるものであると考えております。
- 令和6年度から9年度の教育大綱を示していただきましたので、教育委員会としても市長部局と十分連携し、瀬戸市の将来を担う人材育成、ふるさとに誇りと愛着を持ちまちの未来を拓く人づくりに繋がるよう、努力をしていきたいと思っています。

3 その他
なし

議事を全て終了し、川本雅之市長から閉会のあいさつがなされた。